

FIVE VALUE ASSET

Monthly Newsletter

5 バリュースト通信 Vol.10

Date of issue: 2025.08.15

平素よりお世話になっております。5 バリューストでございます。今月もマンスリーレターとして5 バリュースト通信をお届けいたします。マーケットニュースのご案内の他に、時事に関するコラムなどを月に1回お届けいたします。お楽しみいただけますと幸いです。

Interview メンバーの言葉



副社長 兼 ヘッドオブ東京オフィス
山村 浩之

当社が行っている金融商品仲介業は、内閣総理大臣の登録を受け、証券会社からの委託をもとに有価証券の売買等の媒介等を行う業務です。言い換えれば、当社は独立・中立的な立場でお客さまに資産運用アドバイスをを行い、お客さまの口座は委託元の証券会社が管理を行う体制になっています。

お客さまにご満足いただけるサービスの提供において、金融商品仲介業者と委託元証券会社の連携が非常に重要なものであり、双方に深い信頼関係があることが必須となります。当社は複数の証券会社から委託を受けて業務を行っておりますが、特に東海東京証券とは緊密な関係のもと、様々なサポートをいただいています。

お客さまからは直接見えにくいところではありますが、当社の業務においては大変重要な部分であり、今月号では東海東京証券 IFA ビジネス推進部 推進第1グループの記事を載せておりますので、ご一読いただけましたら幸いです。

Topics 今月のトピックス

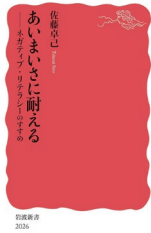


8 Aug 2025

- Book Review
- Think about Jackson Hole
- Tokai Tokyo Securities



- ・佐藤卓己『あいまいさに耐える——ネガティブ・リテラシーのすすめ』
- ・ジャクソンホールに思いを馳せて
- ・東海東京証券 IFA ビジネス推進部 推進第1グループ



佐藤卓己『あいまいさに耐える——ネガティブ・リテラシーのすすめ』(2024, 岩波書店)

1960年、広島市生まれ。1984年、京都大学文学部史学科卒業。1986年、同大学院修士課程修了。ミュンヘン大学近代史研究所留学後、1989年京都大学大学院博士課程単位取得退学。東京大学新聞研究所助手、同志社大学文学部助教授、国際日本文化研究センター助教授などを経て、現在は京都大学大学院教育学研究科教授。

『「キング」の時代—国民大衆雑誌の公共性』(岩波書店 2002年)で第24回日本出版学会賞、第25回サントリー学芸賞を、『言論統制—情報官・鈴木庫三と教育の国防国家』(中公新書 2004年)で第34回吉田茂賞を、『ファシストの公共性—総力戦体制のメディア学』(岩波書店 2018年)で第72回毎日出版文化賞を受賞。(Amazon 著者紹介より)

コロナ禍を通じて、「インフォデミック」(SNSなどを通じて真偽の入り混じった情報が急激に拡散される現象)が注目を集めるようになりました。扇動やかく乱を目的とした風説の流布は、高度情報化社会になる以前、例えば関東大震災のような未曾有の大規模災害の際にも頻出してきたので目新しいものではありませんが、今日では口伝の噂や新聞メディアよりも即時的かつ世界的な規模で、実際の情報も超現実的に捏造された情報も、精査されることなく拡散されていきます。

本書で提示される「ネガティブ・リテラシー」(消極的な読み書き能力)は、読書論に由来する「見過ごし」「読み飛ばし」や「やり過ごす」能力であり、佐藤さんは「耐える力」や「情報をやりすごし、不用意に発信しない力」と定義されます。また類似した考えとして本書では「ネガティブ・ケイパビリティ」(「理解」や「理由」を早急に求めず、あいまいさに耐えること)があげられ、帯木蓬生さんの『ネガティブ・ケイパビリティ』(2017, 朝日新聞出版)などが参考として紹介されます。

一般的なりテラシーでは真偽の判断や能動的な読解(デコーディング)が求められますが、インフォデミック下においては眼前に氾濫する情報に対し「解釈コードを選ぶ手前で、あいまい情報を聞き流し見渡す術」が必要とされるという指摘は、数年来繰り返されるSNSでの炎上や私刑的な誹謗中傷などがネガティブ・リテラシー/ケイパビリティの極端な欠如から起こる事例のようにも見え、非常にアクチュアルなものと思えました。

本書は、「ファスト政治」(2009-2010)、「メディア流言」(2011, 2014)、「デモする社会」(2010, 2012, 2014)、「情動社会」(2016)、「快適メディア」(2017, 2020-2021)、「ネガティブ・リテラシー」(2022-2023)という各章のテーマに合わせた寄稿等を再編(括弧内は初出年)した構成で、政治やメディアや情報環境の変化、進化、衰退に関する同時代評でもあります。また、第6章「ネガティブ・リテラシー」は社会学、メディア論、文化研究/CS(Cultural Studies)の議論が多く登場するため、他の章に比べアカデミックな内容が色濃く出ており、予備知識の有無で読みやすさが大きく変わると思われます。

本書の冒頭から詳しく述べられますが、佐藤さんは原義に従い「世(せ)論」(大衆感情 popular sentiment)と「輿(よ)論」(公的意見 public opinion)を区別し、現在広く流布する popular sentiment を「セロンと書いてヨロンと読む世論」と指摘します(『輿論と世論——日本的民意の系譜学』, 2008, 新潮社なども参照)。本書で取り上げられる「世論」の例で印象深いのは、関東大震災の混乱で流言に惑わされた知識人(和辻哲郎)や、陰謀論を信じる市民や、信じていないが同調圧力により信じる体を装う市民の善良な様子を記した芥川龍之介「大震災雑記」の一節で、特に後者はオルテガの『大衆の反逆』における「大衆」(mass)や「超民主主義」(hyper democracy)の例が強烈に表れているという印象を抱きました。

同時代評として興味深い箇所は、東日本大震災の頃はSNS、とりわけ国内では普及したてのtwitter(現:X)が安否確認や現地情報の発信ツールとして機能していたことや、明仁上皇陛下のビデオメッセージ「象徴としてのお務めについての天皇陛下のおことば」(宮内庁HPで視聴可能)が「玉顔動画」(「玉音放送」に対置された佐藤さんの造語)として、あるいはメディアイベントとして強い印象や共感を与え、退位が「〈世〉論(popular sentiment)」の圧倒的な支持を集めたことなどで、メディアに関わる重要な出来事があったことをすっかり忘却していたと気づかされました。

Think about Jackson Hole ジャクソンホールに思いを馳せて

はや立秋も過ぎましたが、最高気温 40 度超えの報にぞおどろかれぬる残暑厳しい折、いかがお過ごしでしょうか。有名な相場格言に「Sell in May, and go away, don't come back until St Leger day. (5 月に株を売れ、どこかへ行け、セント・レジャー・デーまで戻ってくるな)」があります。これは英国発祥の格言でセント・レジャー・デーとは、9 月中旬に行われる世界最古のクラシック競馬セントレジャーステークスの開催日を指し、要は夏の間は株のポジションを一旦落として 9 月までゆっくりバカンスをエンジョイしろ、の意だと個人的には解釈しています。アノマリー（季節性や法則性）としても結構当たっている節があるのですが、そちらは一旦置いておきましょう。

バカンスシーズンですから。

さて夏のバカンス、海も良いですがここまで酷暑が続くと冷涼な山間部での滞在も憧れます。あいにく筆者に予定はありませんが、世界の金融市場関係者の中には、早々にその涼しげな地でのブックを決めらっしゃる方々が存在します。8 月 21 日から 23 日にかけて開催される「ジャクソンホール会議」に参加されるお歴々です。今回は、その「ジャクソンホール会議」についてバカンスモードで緩く掘り下げてみたいと思います。

「ジャクソンホール会議（「正式にはジャクソンホール経済シンポジウム）」は、米国に 12 行ある地区連銀の 1 つカンザスシティ連邦準備銀行が 1978 年以来毎年夏に開催しているシンポジウムで、当初は農業経済政策を主要テーマとし開催地もカンザスシティやデンバーなどまちまちでしたが、1982 年から開催地をワイオミング州ジャクソンホールへ移し、テーマも米国および世界経済が直面する重要な問題などへとシフト、その結果 FRB 議長や各地区連銀総裁から主要国の中央銀行総裁・幹部、経済学者らが集う一大イベントとなっています。一説には当時の FRB 議長ポール・ボルカー氏が大のフライ・フィッシング好きだったことから、彼の参加を促すために釣りの名所であるかの地が選ばれたと言われています。

さてこの開催地のジャクソンホールの綴りは、タウンホールミーティングなどの hall ではなく hole つまり穴なのです。これはかの地が 4000m 級の切り立ったティトン山脈に囲まれた谷で、まるで穴に陥ってしまったように感じられることから付いた地名だそうです。ただし谷とはいえ平均標高は 2000m 近くあり、また内陸部の為、冬場は特に冷え込みが厳しく氷点下 54.4 度を記録したこともあるそうです。それ故全米屈指のスキーリゾートでもあります。



また、谷にはいくつもの湖があり、その中で最大のジャクソン湖の畔にあるジャクソン・レイク・ロッジが「ジャクソン会議」のメイン会場になっています。ロッジのダイニングからは眼下に美しいジャクソン湖が広がりその彼方に屏風の様なティトン山脈が鎮座しますといった素晴らしい景色が見られるそうで、そのダイニングは The Mural Room（壁画の部屋）という素敵な名前が付いています（実際の壁画もあるみたいですが）。一帯はグランド・ティトン国立公園となっていますが、さらに北へ進むと全米一人気の高いイエローストーン国立公園があり、ジャクソンホールはその玄関口でもあります。

要はこのジャクソンホール、素晴らしい極上のリゾート地であり、敢えて日本に置き換えてみると、日銀の釧路支店が阿寒摩周国立公園辺りでシンポジウムを開催するといった趣でしょうか。筆者は釣りは嗜みませんが、トレッキング、スキーが趣味なので、かの地には「ジャクソンホール会議」があろうとなかろうと一度は訪ねてみたい場所なのです。

随分とバカンスモードに振れてしまいました。強引に証券会社らしいコラムに話を戻しますと、この「ジャクソンホール会議」、リーマンショック以前はさほど注目されていませんでした。2010 年に時の FRB 議長ベン・バーナンキ氏がこの会議上で追加の金融緩和を示唆し、果たしてその後 11 月 FOMC で量的緩和第 2 弾（QE2）が決まったことから夏休みシーズンの真っ盛りとはいえ無視できないイベントとなっていったのです。またもともと 8 月は FOMC が開催されないの、その補完的な意味合いを市場は求めるようになってきています。

では今年の「ジャクソンホール会議」はどうでしょう。市場では 9 月 16・17 日の FOMC での利下げをほぼ織り込んでいますが、その辺りを踏み込んだ発言がパウエル FRB 議長から出るでしょうか？個人的には否だと思えます。「ジャクソンホール会議」から 9 月 FOMC の間に発表される雇用・物価のデータを見てからとしか言わないのでないかと予想しています。

ですので、グランド・ティトン国立公園の涼し気で心洗われる風景写真でも眺めながらバカンスモードで今年の「ジャクソンホール会議」を迎えようかと思っております。果たして結果はいかに！？



IFA ビジネス推進部 推進第1グループのみなさん

当社は金融商品仲介業者として東海東京証券から業務を委託されており、IFA ビジネス推進部 推進第1グループがサポートの窓口として、債券プライスの照会や取引約定、事務手続きなどの様々な業務において緊密に連携いただいています。顧客重視の理念で結ばれた方々であり、当社にとって心強い存在です。

日々、IFA ビジネス推進部 推進第1グループと業務で関わっている当社スタッフの声をご紹介します

当社のお客さまからの様々なご要望に対して、ウェルスマネジメントへの深いご理解のもと、最優先かつ細やかに対応いただいております。債券を専門とする当社の強みを発揮するうえでとても助かっています。

(鐘ヶ江伸 チーフ・マーケティング&プロダクトオフィサー)

当社のお客さまへの対応を常に最優先してくださっていることや、4月にはサポート強化のため、部員を2名増員いただくなど、当社へのご配慮に対して非常に感謝しています。

(野口智之 マーケティング&プロダクトオフィサー)

同社の厳格なコンプライアンス態勢は、時には融通が利かないとさえ思われますが、忖度なしに正しい姿勢を貫く業務執行姿勢を実は高くリスペクトしています。真のパートナーと感じています。

(合田潔 チーフ・コンプライアンス・オフィサー)

当社を長く担当されている部員の方が多く、当社のお客さまをよく理解してくださっていると感じます。日々の業務に加え、当社セミナーへの参加などを通じて、親しくしていただいております。深い信頼関係が築けていると思います。(井上裕佳子 営業アシスタント)

当社のお客さまをよく理解してくださっていて、取引対応や事務手続きにおいて、お客さまごとの一連の流れを都度説明する必要がなく、業務が進めやすいです。コミュニケーションが取りやすく、不明な点の質問に対しても分かりやすく説明していただきます。(根本晴美 営業アシスタント)



5Value Asset Co., Ltd.



5 バリュースセット株式会社 金融商品仲介事業者 近畿財務局長(金仲)第437号

各商品等にご投資いただく際には商品毎に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。又、各商品等には価格の変動等による損失を生じる恐れがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等をよくお読みになり内容について十分にご理解ください。

この通信は、当社ホームページに掲載するほか、当社セミナーにご参加いただいた方、業務提携をいただいた方、および IFA 口座をお申し込みいただいた方に送付しております。送付の停止・送付先変更をご希望の場合は、大変お手数ですが下記のメールにご連絡ください。送付の停止・送付先変更には、少々お時間をいただく場合がございます。

発信者：5 バリュースセット株式会社 クライアント・リレーション

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビル20F

newsletter@5valueasset.com